

2021年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科

【研究代表者氏名】：前田充浩

【研究代表者氏名フリガナ】：マエダミツヒロ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

・

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

・

【研究課題名】：近代文明の文明多様性型進化モデル研究（脳機能文明分析）

【研究実績の概要（600～800字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

・本研究は、情報社会学 (Infosociomics) 文明進化モデル研究の系譜に載り、文明多様性 (Civilizational Diversity) の考え方に立脚して独自の文明進化モデルを構築し、そのモデルに立脚して近代文明の今後の方向性を検討するものである。最大の特徴は、脳生理学の成果を全面的に導入し、脳機能の視座により文明を類型化し、それぞれの進化の方向性を検討するところにある。この方法論は、脳機能文明分析 (Brain Functional Analysis of Civilizations) と呼ばれる。

・情報社会学文明進化モデルを精査することにより、今後の近代文明の進化の方向性としては、ラスト・モダン、すなわち近代文明の基本的な枠組みは維持しつつ、それを高度化させたものになる可能性が高いことが導き出された。一方、高度化のためには、全体脳機能と呼ばれる脳機能を活性化させる文明上の制度を構築し、社会システムに埋め込む (embed) することが必要であると導かれる。

・近代文明における全体脳の活性化のための制度構築の基礎となるデータを収集するための取り組みとして、本研究では、社団法人ピグマリウス・アカデミア（研究代表者は理事を務める）の全面的な協力の下、シンセサイザー・オーケストラ研究に取り組むこととしており、本年度においては、コンサート等の実践とともに、理論化の取り組みも開始した。

・本研究は、近代文明の「ヨーロッパ絶対史観」を打破し、文明多様性の理論的基礎を導くものとなるため、アジア、アフリカ関係者の期待は大変に強く、情報社会学の国際学会である世界応用情報社会学会 (Global Society of Applied Infosociomics、研究代表者は副会長を務める) との連携の下、既に幾つかの大学等との共同研究を開始したところである。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

- ・『第3新叡智論』、「小石川音楽工学セミナー」における基調講演 [対面、文京区] (7月)
- ・『A Philosophy of the Civilizational Diversity』、ダルマプルサダ大学、Umbu Marisi 財団 (インドネシア) との「文明多様性セミナー」における基調講演 (8月)
- ・『Towards the Applied Infosociomics』、世界応用情報社会学会年次総会・国際セミナーにおける基調講演 [遠隔] (11月)

- ・『文明多様性と音楽工学』、「音楽工学セミナー」における基調講演 [対面、宮城県登米市] (12月)
- ・『Informatized Society Building on African Continent』、Ekrufleni 大学との「アフリカ大陸情報化ワークショップ」における基調講演 [遠隔] (2月)
- ・Dong A 大学 (ベトナム) との「原産地証明セミナー」 [遠隔] (2月)
- ・『地球響文明と DX 林業』、「文明多様性セミナー」における基調講演 [対面、宮城県登米市] (3月)

【論文発表又は著書発行 (発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)】

[書籍出版]

- ・『応用情報社会学—発展途上国における情報社会構築の指南書』公文俊平との共著、ERISE PRESS
- ・『Applied Infosocionomics-A Manifesto of Infomatized Society Building in Developing Economies』(英語) Shumpei Kumon との共著、ERISE PRESS
- ・『文明多様性と近代文明の進化—脳機能文明分析に向けて』(単著)、ERISE PRESS
- ・『The Civilizational Diversity and the Evolution of the Modern Civilization-Towards the Brain Functional Analysis of Civilizations』(英語) (単著)、ERISE PRESS

[論文発表]

- ・『プラットフォームによる官民協調型ガバナンス機構—情報社会学近代化モデル「2重の」統合国家試論』、東京都立産業技術大学院大学紀要、2022年1月。

【作品等】

- ・音楽工学に関する研究の実証としてのシンセサイザー・オーケストラ・コンサートの実施 [対面] (12月) (一般社団法人ピグマリウス・アカデミア理事として参加)

【科学研究費助成事業への応募状況、採択状況】

・

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

・

【受賞等】

・

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

[公的貢献] (研究代表者)

- ・NPO 法人文明多様性協会理事長に就任
- ・一般社団法人登米芸術文化村理事に就任
- ・NPO 法人キルギス・アセアン・アカデミー理事長に就任
- ・一般社団法人ピグマリウス・アカデミー理事 (継続)

[国際共催セミナー]

- ・ダルマプルサダ大学、Umbu Marisi 財団 (インドネシア) との「文明多様性セミナー」(8月)
- ・世界応用情報社会学学会との共催国際セミナー [遠隔] (11月)
- ・Ekrufleni 大学 (南アフリカ) との「アフリカ大陸情報化ワークショップ」 [遠隔] (2月)
- ・Dong A 大学 (ベトナム) との「原産地証明セミナー」 [遠隔] (2月)
- ・キルギス共和国ソフトウェア協会との「キルギス情報産業セミナー」 [遠隔] (3月)

・「文明多様性セミナー」〔対面、宮城県登米市〕（3月）

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

（工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日）

・

【研究分担額】

（研究代表者・分担者名、所属、金額（円））

・